

蝦夷

琉球

・津軽の安藤（安東）氏が[a.]を拠点にアイヌと交易（140）

↓ 和人の渡島半島南部への定住

・道南十二館の形成（150）：志苔館・茂別館など
→和人は津軽の安藤氏の支配下に置かれた

↓ 和人の圧迫への反発

・[b.]の戦い（1457）：アイヌの首長が蜂起
→蠣崎氏の客将武田信広が鎮圧し、蠣崎氏を継承

↓

蠣崎氏が館主を統一し、松前を本拠とする（1514）

↓

蠣崎慶広が豊臣秀吉より蝦夷島主の待遇を受ける（1590）
蠣崎慶広が[c.]氏に改姓（1599）

↓

家康が松前慶広にアイヌとの交易独占権を与える（1604）
→松前藩の成立

↓

【松前藩とアイヌの関係】

① [d.]（170）
松前藩は無高のため、家臣に商場（アイヌとの交易場所）の交易権を分与した

↓ アイヌに不利な比率への変更

② [e.]の戦い（1669）
アイヌ主体の交易を求めて蜂起したが敗れた

↓

③ [f.]（180）
藩士は運上金の納入を条件に商場を商人に委託し、経営を請け負わせた
→アイヌは漁場の労働力としても用いられるなど、対等な交易相手ではなく、松前藩の支配下に

↓

蝦夷地の産物は[g.]で各地へもたらされた

・強力な[h.]（有力豪族）の出現（140）
→北山・中山・南山に分立

↓ 中山が明に朝貢

・[i.]の建国（1429）
中山王[j.]が全島を統一、都を首里に置き、外港として那覇を整備した

↓

・[k.]による繁栄

日本・明・東南アジア諸国を結ぶ中継貿易を展開

→「万国津梁の鐘」の铸造（150半）…最盛期

↓ 後期倭寇・ポルトガルによる中継貿易

琉球の中継貿易の衰退（160半）

↓

・薩摩藩[l.]による征服（1609）
薩摩藩の支配下で琉球王国は存続（日中両属）
⇒明（後に清）との朝貢貿易は継続

{ 薩摩→琉球：硫黄・海産物
琉球→薩摩：黒砂糖・中国からの生糸・漢方など }

↓

・琉球から幕府への使節派遣（1632～）

{ ①[m.]…新将軍の就任祝いに派遣
②[n.]…新琉球国王就任時に派遣 }

⇒施設は中国風に仕立てられ、幕府の権威が異国にまで及んでいるように人々に印象付けた

蝦夷

琉球

・津軽の安藤（安東）氏が[a. 十三湊]を拠点にアイヌと交易（140）

↓ 和人の渡島半島南部への定住

・道南十二館の形成（150）：志苔館・茂別館など
→和人は津軽の安藤氏の支配下に置かれた

↓ 和人の圧迫への反発

・[b. コシヤマイン]の戦い（1457）：アイヌの首長が蜂起
→蠣崎氏の客将武田信広が鎮圧し、蠣崎氏を継承



蠣崎氏が館主を統一し、松前を本拠とする（1514）



蠣崎慶広が豊臣秀吉より蝦夷島主の待遇を受ける（1590）
蠣崎慶広が[c. 松前]氏に改姓（1599）



家康が松前慶広にアイヌとの交易独占権を与える（1604）
→松前藩の成立



【松前藩とアイヌの関係】

① [d. 商場知行制]（170）

松前藩は無高のため、家臣に商場（アイヌとの交易場所）の交易権を分与した

↓ アイヌに不利な比率への変更

② [e. シャクシャイン]の戦い（1669）

アイヌ主体の交易を求めて蜂起したが敗れた



③ [f. 場所請負制]（180）

藩士は運上金の納入を条件に商場を商人に委託し、経営を請け負わせた

→アイヌは漁場の労働力としても用いられるなど、対等な交易相手ではなく、松前藩の支配下に



蝦夷地の産物は[g. 北前船]で各地へもたらされた

・強力な[h. 按司]（有力豪族）の出現（140）
→北山・中山・南山に分立

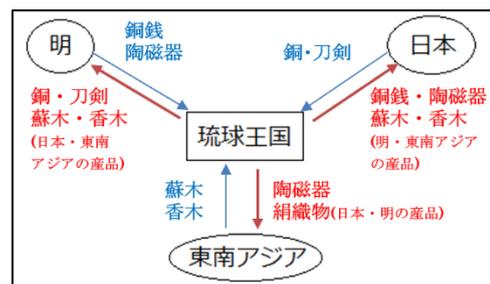
↓ 中山が明に朝貢

・[i. 琉球王国]の建国（1429）
中山王[j. 尚巴志]が全島を統一、都を首里に置き、外港として那覇を整備した



・[k. 中継貿易]による繁栄

日本・明・東南アジア諸国を結ぶ中継貿易を展開



→「万国津梁の鐘」の铸造（150半）…最盛期

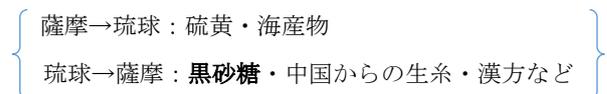


後期倭寇・ポルトガルによる中継貿易

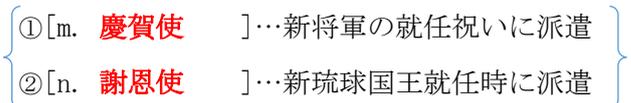
琉球の中継貿易の衰退（160半）



・薩摩藩[1. 島津家久]による征服（1609）
薩摩藩の支配下で琉球王国は存続（日中両属）
⇒明（後に清）との朝貢貿易は継続



・琉球から幕府への使節派遣（1632～）



⇒施設は中国風に仕立てられ、幕府の権威が異国にまで及んでいるように人々に印象付けた